

(d) 調査結果

回収した漂着ゴミの容量・重量を表 3.2-7 に、回収した漂着ゴミを図 3.2-22 に示す。

表 3.2-7 独自調査における漂着ゴミ回収結果（飛島西海岸 地点2・植生内）

	A (136㎡)		B (210㎡)		合計 (346㎡)	
	重量 (kg)	容量 (L)	重量 (kg)	容量 (L)	重量 (kg)	容量 (L)
紙類	0.001	0.01	—	—	0.001	0.01
ゴム類	5	30	14	85	19	115
ガラス類	2	4	5	15	7	19
金属類	0.2	2	0.5	5	1	7
発泡スチロール類	6	315	42	1,410	48	1,725
プラスチック類	30	300	93	1,062	123	1,362
その他の人工物	—	—	1	5	1	5
合計	44	651	156	2,582	200	3,233

※A：のべ7.5時間、B：のべ20時間



回収したゴミ（全量 A 区域）



回収したゴミ（プラスチック類 A 区域）



回収したゴミ（全量 B 区域）



回収したゴミ（プラスチック類 B 区域）

図 3.2-22 ツブ石海岸周辺の植生内において回収したゴミ

k. 赤川河口部における植生内の漂着ゴミの回収（地点 1、地点 4）

(a) 調査目的

地域検討会などで、風や波により海岸の後背地に植生内までゴミが移動していることが指摘されていた。そのため、赤川河口部の地点 1 および地点 4 の後背地において、その実態を把握することを目的として植生内調査を実施した。

(b) 調査場所

地点 1 においては、海側斜面（1-A 区域）と陸側斜面（1-B 区域）の 2 区域を設置した。A、B の海岸線長は 100m、内陸方向に A 区域（斜面下～尾根）は約 40m、B 区域（尾根～谷）も約 40m とした。平面模式図を図 3.2-23 に、断面模式図を図 3.2-24 に示す。

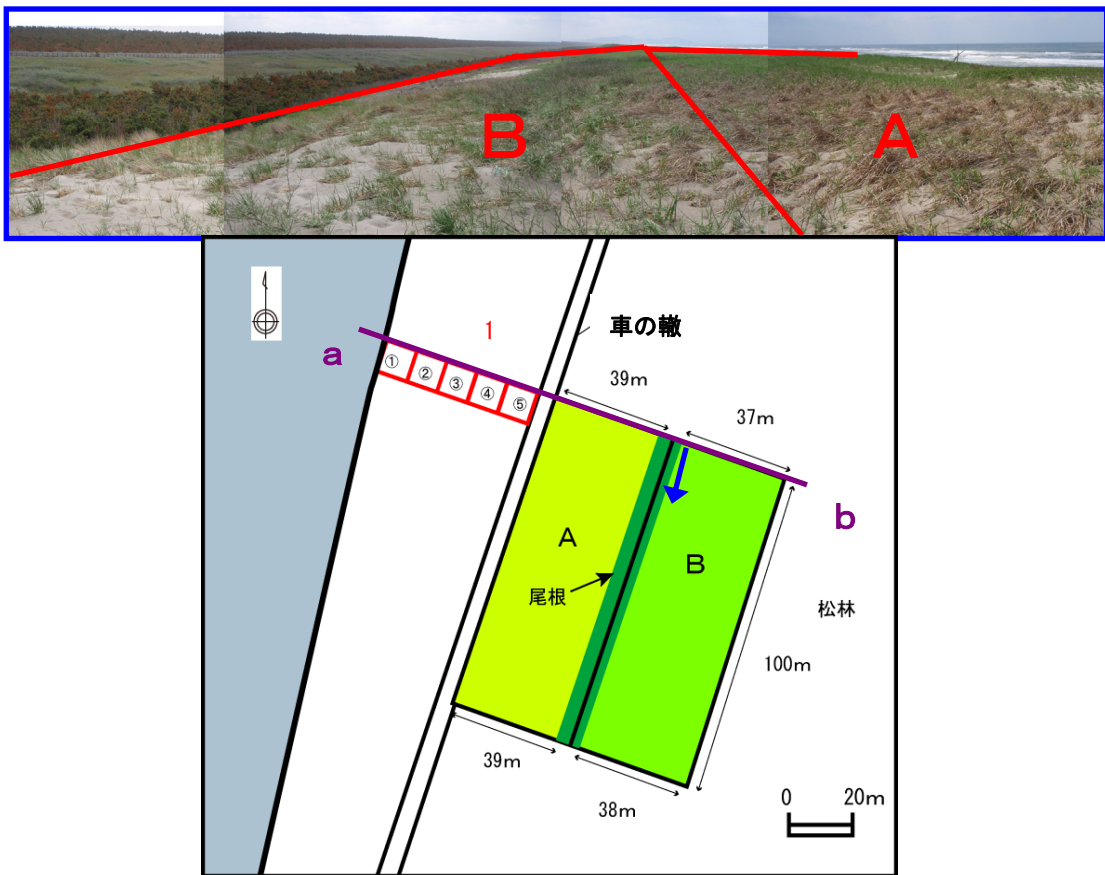


図 3.2-23 植生内調査における平面模式図（赤川河口部：地点周辺）

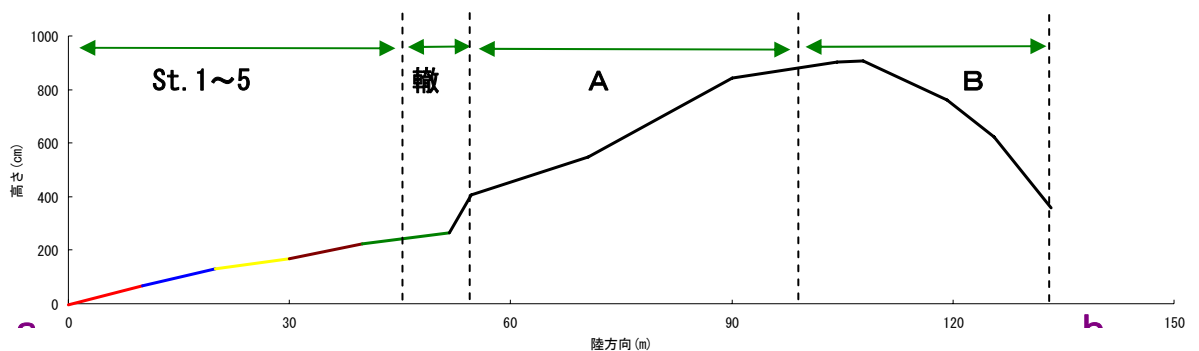


図 3.2-24 植生内調査における断面模式図（赤川河口部：St.1 周辺）

地点4については区域を海側斜面(4-A区域)、陸側斜面(4-B区域)、内陸海側斜面(4-C地区)の3区域を設置した。A、B、Cの海岸線長は100m、内陸方向にA区域は約20m(斜面下~尾根)、B区域(尾根~谷)は約50m、C区域(谷~管理用道路)は約30mとした。平面模式図を図3.2-25に、断面模式図を図3.2-26に示す。

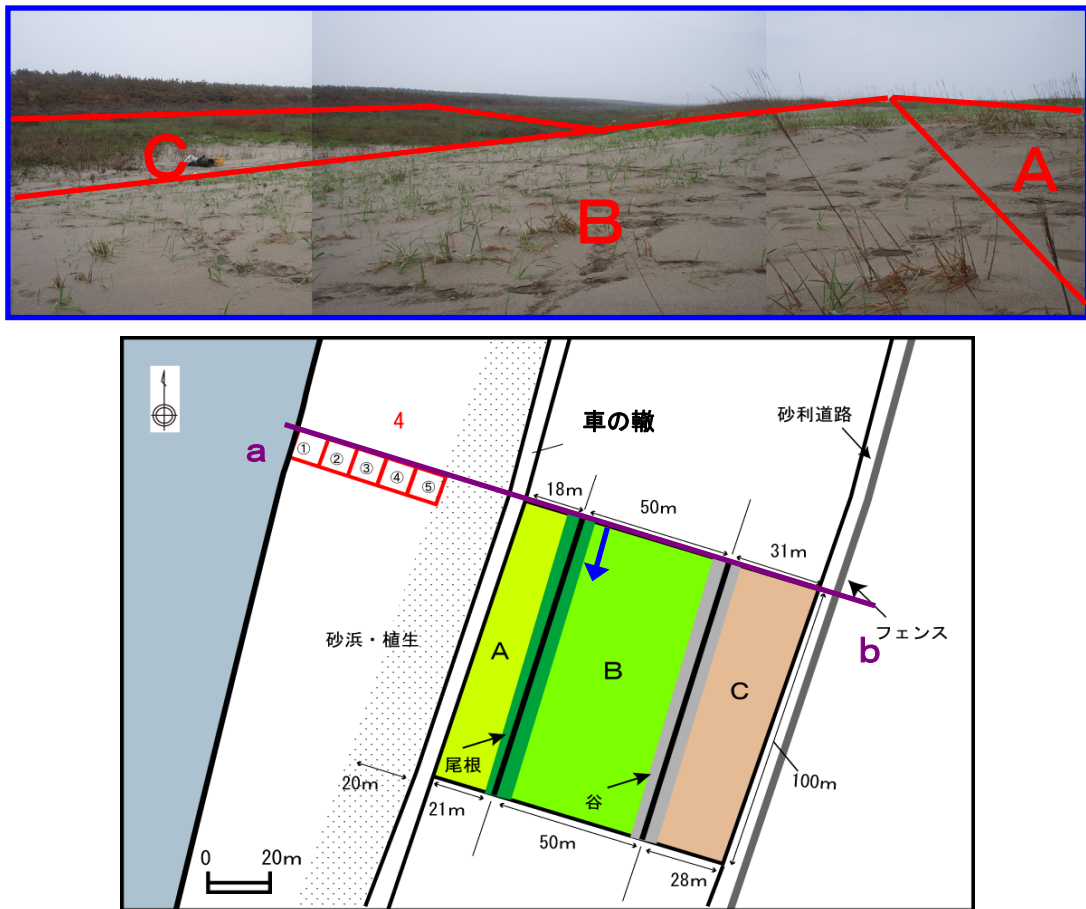


図 3.2-25 植生内調査における平面模式図(赤川河口部: 地点4周辺)

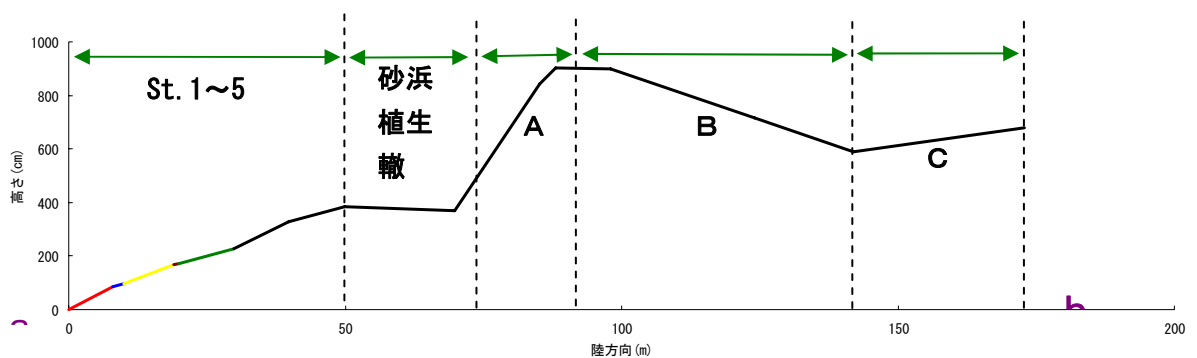
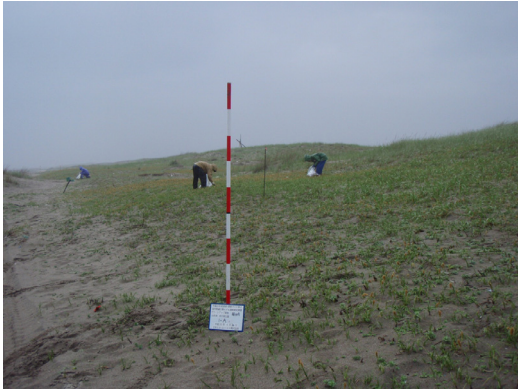


図 3.2-26 植生内調査における断面模式図(地点4)



(c) 調査方法

回収は、植生内のため重機による回収ではなく、人力により行った。草丈は膝丈程度で、地面が見えている場所が多かった（図 3.2-27）。



人力による回収（地点 1-A 区域）



人力による回収（地点 1-B 区域）



人力による回収（地点 1-B 区域）

図 3.2-27 山形県（赤川）における植生内調査の写真